

中国の海口騎楼老街における観光の現状と課題

The Current Situation and Issues of Tourism in Haikou Qilou District, China

潘 麗銳
PAN Lirui

1. 序論

(1) 研究背景と研究対象

騎楼は、建物の1階部分をセットバックさせて半屋外の歩行者空間にした家屋が連なって創出される空間である。騎楼のある街（騎楼街）は、海上貿易によって形成された、中国嶺南地方（中国の南部の南嶺山脈よりも南の所の総称であり、一般的に中国の福建省、広東省、広西省、海南省とマカオ、香港5ヵ所を指す）の沿海都市に集中的に分布している街並みである。騎楼は店舗兼住居であり、騎楼街には商人と商人以外の住民が混在している。現代都市の急速な発展に伴い、騎楼街において様々な課題が生じている。騎楼建築の様式のため、騎楼街の商業空間と居住空間は限界と歩行に適してはいるが現在都市の交通手段に適さない街道などである。また、人口増加により、多世帯居住による所有権の問題も存在していた。従って、現代の都市建設において、騎楼街の機能および建築自体が徐々に消えていく。後述するように、20世紀末から騎楼街の保護または開発が嶺南地区で広く展開された。様々な保護または改革活動を通じた、政府機関による騎楼街の歴史的文化的価値の維持と、観光資源化によって観光地化が促進された。こうした歴史的文化的背景のある都市においては、建物だけでなく、建築物や騎楼など都市空間の使い方も検討し、その背景を継承していく必要も考えられる。政府主導による騎楼街の保護・開発および騎楼街での商業展開の関係と、騎楼街を来訪する観光客の受け止め方の関係を把握することが求められる。



図1. 中国海南省海口市の海口騎楼老街

本研究の研究対象は、中国の海南省海口市にあり、複数の騎楼の街並みで構成されている「海口騎楼老

街」である。騎楼街の文化遺産として高く評価され、2009年に中国文化部と国家文物局により第1弾の十大「中国歴史文化名街」の一つに選ばれた。この騎楼街は、海口市を流れる海甸川の南岸に位置し、面積は約45haであり、その中に全部16本の騎楼街が存在している。

(2) 研究の目的

本研究では、海口市の騎楼街の建築および都市空間の利用に関し、観光に関するステークホルダーである政府の取組み・商業動向・観光客による受容の関係を明らかにし、騎楼街における文化的価値を維持しながら観光に取り組む方法を検討することを目的とする。

(3) 研究方法と論文構成

本論において、第2章と第3章では既往研究・市史・著書などの文献調査により、中国嶺南地方における騎楼街全体の形成過程や社会的な背景及び海口市の騎楼街の形成要因や形成過程を把握した。第4章では政府の公文書と新聞記事などの文献調査により、政府による騎楼街の保護および開発の取り組みを把握した。第5章では、統計資料などの文献調査および現地調査により、海口市の騎楼街に展開する商業の変遷と現在の使用状況の特徴を把握した。第6章では、中国の観光会社に公開された観光写真に対する分析に基づいて海口騎楼老街の観光客の行動特性を把握した。最後の第7章では、前3章の結果を照合して政府・商業・観光客の関係を考察した。

2. 中国嶺南地区における騎楼街

(1) 騎楼街形成の社会的背景

嶺南地区の騎楼街の形成は、中国国内で起こった革命運動と深く関係する。18世紀後半から、イギリスを中心としたヨーロッパ諸国が中国の市場を開拓しようとしていた。ヨーロッパの先進的な技術や異なる文化が強い勢いで中国に伝来し、外来文化・技術の交流が始まった。アヘン戦争以降、「太平天国の乱」など5つの国内の革命運動が起こるたびに、ヨ

ヨーロッパ近代文明の吸収が中国政府によって提唱されていった。また、嶺南地区では、北部の中原地方と山脈で隔てているため、中原の政治および文化の影響を受けにくく、中原地方とは異なり農業よりも商業の発展を重視していた。アヘン戦争以前から、すでに国内の海上貿易と対外の海上シルクロードの重要な貿易港であった広州市を含む嶺南地区には、アヘン戦争以後多くの対外貿易港が開港された。そして、戦争などの圧力により、労働力として海外に出ることで生計を立てることは一般化になり、華僑を多く輩出した。

（２）騎楼街の変遷過程

アヘン戦争後、農業の衰退とともに都市の人口が大量に増加し、産業構造が大きく変わっていった。多くの港湾整備により、嶺南地区の商業もさらに発展してきたため、商業はより広い商業空間を求めている。院落などの伝統的な建築と異なった多層建築であった騎楼建築の発展が必然な成り行きとなった。広州市では、市による騎楼街建設の指導と1929年の広東省による「広東省各縣市開辟道路方法」の公布により騎楼建設は大きな成功を収め、広東省の各都市と周辺都市では広州市に倣って大量の騎楼を建設するようになった。こうして、騎楼政策によって騎楼街の建設を最大限に規範化し、嶺南地方の各都市における騎楼街の発展が促進できた。そして、政府支援のほか、華僑の貢献も重要な役割を果たしていた。清政府が公布した『擬訂華商弁理実業爵賞章程』は華僑の帰国と投資を奨励していたため、1920、30年代の都市建設における騎楼建設がさらに促進できた。

しかし、更なる都市建設に伴い、騎楼街が衰退していく事態を直面する原因は2つと考えられる。一つ目、騎楼街の個人経営や小型家内制手工業が、増大しつつある商業需要に対応できなくなることで、大型の複合商業施設や高層住宅ビルが各地に多く出現した。また、都市建設にとって二・三階の騎楼の限られた建築面積は、土地利用の最大化に満たしていない。二つ目、騎楼街が発展できた時期では、都市の交通手段は主に歩行、自転車や人力車なので、街道および建物の尺度はすべて歩行者の立場からデザインされたため、従来の騎楼街街道の幅は、自動車を主とする現代都市の交通手段に適さない。

近年になると、建設から百年を経た騎楼街に対して、各都市は残されている騎楼街の保護政策、修繕工事または再活用事業に取り組むようになった。

3. 海口市の騎楼街

（１）騎楼街の形成要因

中国の広州市を中心とした嶺南地区は、植民運動や海上貿易のため、東南アジアと接触した。特に地理的に接触しやすかった海口市は、広州市からの影響を受けながら、直接東南アジアと接触していた。1858年に瓊州（海口）が対外貿易港に指定されたため、海口が海南省の最も重要な対外貿易港となった。また、海南省建省以前、海口市は広東省に所属しており、広東省による騎楼建設の政策によって、海口市も大量の騎楼を建設した。そして、『瓊海関百年報告1882-1981』によると「毎年、数千万人の海南人が東南アジアで働いた。彼らは海南に戻った時、耕作、採鉱、建築の技術、経験や大量の資金を持ってきたため、地域の経済発展を促進した。」と述べられている。海南の華僑が騎楼形成の要因の一つとなった。当時華僑のために盛んになった「僑批業」（海外の華僑と国内にいる華僑の家族の間に、様々な物資と金銭を集荷、郵送する組織）は、主に海口市に集中していた。海口に集まった金銭により、海口市の騎楼建設は大量の資金が保証された。最後、騎楼建築の構造は海口市の高温多雨の気候特徴に適し、騎楼の廊下空間は、歩行者にとって雨宿りや日よけに良い空間である。

（２）騎楼街の変遷過程

前述の形成要因を踏まえ、騎楼街の変遷過程は、萌芽期、発展期、衰退期、復興期に区分した。

萌芽期（1858-1911）：1858年に海口市が対外貿易港となり、海関を建設した後、外国人が海口所城の外部（現得勝沙路）に騎楼を含む多くの西洋建築を建て始めた。『海南日報』の記事により、海口最初の騎楼は1849年に旧四牌楼街（現在の博愛北街）に建てられた。

発展期（1912-1930）：1912年民国政府が成立し、一連の近代企業を支援する政策および騎楼建設の政策を策定・公布して、華僑が援助した膨大な資金と技術を都市建設に活用した。大規模の騎楼街建設も同時に発展した。さらに1924年、元海口所城の城壁が取り壊されたことにより、騎楼街が外部空間（現得勝沙路、長堤路）まで拡大された。騎楼街の建設により、当時最も盛んな商業町集積地が形成された。

衰退期（1931-1987）：1931年から始まる24年間の戦争により、発展の最中であった騎楼街の被災が、やむを得ず海上貿易及び騎楼街の商業活動を停滞させ始めた。1949年に建国したが、全国の国内革命運

内と屋外に分類し、さらに屋外を騎楼街ごとに集計した。そして、イベントの内容は、「騎楼街関係（騎楼街の歴史文化や修復工事など直接騎楼街と関連するイベント）」・「地域関係（地域文化または地域の特徴と関連するイベント）」・「その他（上記2項目に当てはまらないイベント）」と統計した。

その結果、イベントの開催場所（表1）に関し、全体としては、屋内で行われたイベント（8件）は屋外（26件）と比較してはるかに少なかった。そして、文化展示館が中山路に位置していることを踏まえ、9割のイベントは中山路で実施した。そのため、中山路が海口騎楼老街の中心であるのように取り扱われていたことが考える。イベントの内容（図3）に関し、全体では、イベント開催場所にもかかわらず、その他イベントが非常に多く掲載されていた。つまり、騎楼街もしくは海口市固有の文化を伝えるイベントが少ないことがうかがえる。最後（図4）年間のイベント数からみると、その他イベントの増加が顕著であることに対して、騎楼街もしくは海口市固有の文化を伝えるイベント1件までに急激に減少したことにより、修復工事の終了とともに、騎楼街に注目するより、騎楼街を場として利用する傾向が顕著であることが考えられる。

5. 騎楼街における事業所の現状と変遷

海口騎楼老街では、基本的に騎楼建築の1階部分は様々な事業所、2階以上は居住や1階の店舗と繋げてとして使用されている。本章では、修復工事が重点的に実施された核心地域にある3つの騎楼街（中山路・水巷口街・博愛北路）の1階の事業所構成と2階以上の空室率を把握した。次いで、文献調査（発展期：『海口市中山路の老舗（2014年）』；復興期（修復直前）：『海南近代建築研究（2008年）』）により、中山路での店舗構成の変遷を時期別で把握した。

（1）騎楼街ごとの事業所構成

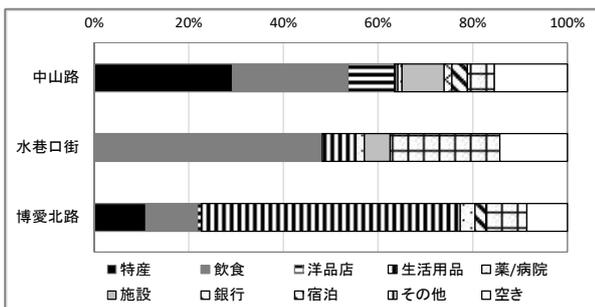


図5. 騎楼街ごとの1階の事業所構成

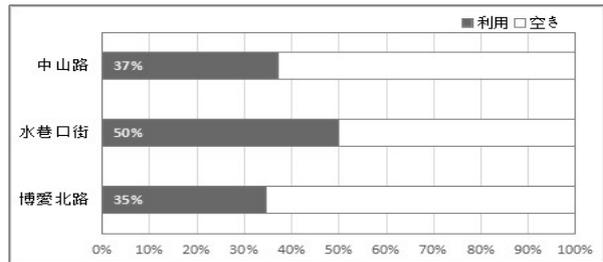


図6. 騎楼街ごとの2階の使用状況

中山路では、特産品販売・飲食・宿泊などの観光向け事業所が多く、生活用品を扱う店舗は極端に少ない。また、空き店舗および交番・トイレ・騎楼文化展示館などの施設も一定数あった。水巷口街では、飲食がほぼ半数と多く、ビジターセンター・騎楼文化展示館などその他事業所も多い。博愛北路では、特産品販売・飲食・宿泊などの観光事業所はあるものの、カーテン/寝具販売および生活用品販売が多かった。空き店舗の割合は3つの騎楼街の中で最も少なかった。つまり、中山路は観光地の性格が最も強く、水巷口街は飲食店街の性格が強い。一方、博愛北路は、一部は観光事業所であったが、過半数は生活関連事業所であった。つまり、観光客よりも住民を相手にした商店街としての性格が強い。そして、騎楼街の1階部事業所の利用状態に対し、2階以上の居住空間の空き家率は、いずれも50%を超えている。従って、この3つの騎楼街は観光客が特に集中する地域でありながら、かつて有していた居住地としての性格が失われつつあることが考えられる。そして、観光地化の程度と日常生活との関係の濃淡は騎楼街ごとに差異が見られ、中山路を中心に近い騎楼街ほど観光地化が進行する一方、日常生活との関連が希薄になる傾向があると考えられる。

（2）中山路における店舗構成の変遷

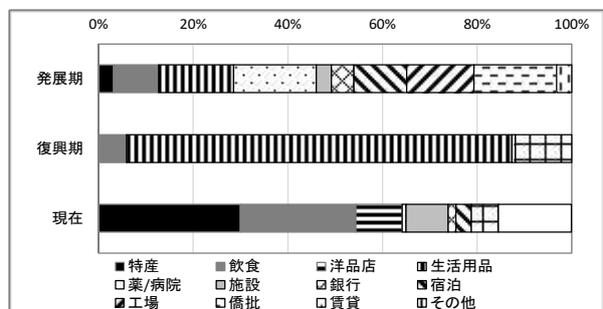


図7. 時期別における中山路の事業所構成

発展期の中山路では、僑批（華僑のため、海外と国内の間に送金などを行う商業）と薬局/病院が最も多かった。次いで生活用品・工場・宿泊施設も比較的多かった。この時期の中山路は貿易港近くで生活

が営まれ、それに適応した住職混在の空間であった。衰退した騎楼街が復興期に入ると、8割近くが生活用品かつそのほとんどが電気屋となった。海上貿易の衰退などの社会変容で、僑批や宿泊施設、工場が全部無くなった。一般的な生活用品を扱う商店街としての性格が低く、住民にとっても利便性の高い居住空間ではなくなったといえる。業態調整などの修繕工事を受けて観光地化した現在、中山路では、特産品販売が最も多くなり、次いで飲食店、洋品店などが大幅に増加した。一方、生活用品販売店はなくなり、住民向けではなく観光客向けの商店街になったといえる。一方、空き店舗が増えており、観光地化を促進した結果、多様な事業所の可能性が制限されてしまったとかがえる。また、業態調整など政府による政策の影響を強く受けているといえる。

6. 騎楼街に騎楼街における観光客の観光行動

観光地化した海口騎楼老街では、各騎楼の事業所も観光業向けとなっており、かつての職住混在していた様子は失われてしまっていた。本章では、このような状況において、騎楼街に來訪する観光客が騎楼街の何を認識しているのか把握した。中国の中商産業研究院の「2018年の中国オンライン旅行市場研究報告書」により、中国大手OTA観光会社QUNARの客層は最も広く、アプリのユーザー数は一位であることが分かった。従って、第6章の分析対象はQUNAR観光会社の「観光客ブログ」に掲載された、2018年一年間に海口騎楼老街に來訪した34人の観光客が撮影した写真353枚であった。

(1) 撮影場所の分析

分析対象とした353枚の観光写真の内容から、観光写真の撮影場所を「中山路・水巷口街・博愛北路・他騎楼街・鐘楼・美食城・その他観光スポット・不明」8つの種類に同定し、撮影場所ごとの撮影数や一人当たりの平均撮影数などを把握した。

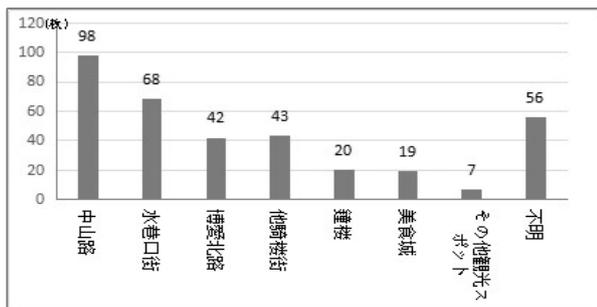


図8. 撮影場所別撮影数

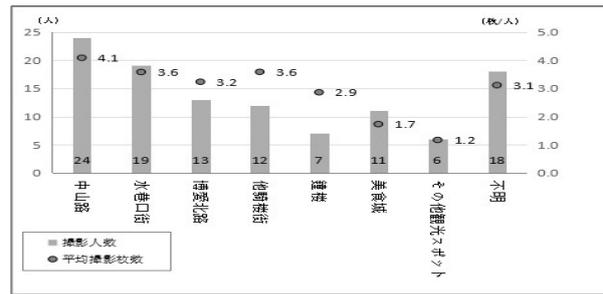


図9. 撮影場所ごとの平均撮影数と撮影人数

撮影場所 (図8) では、最も多く撮影された場所は中山路であり、次いで水巷口街、博愛北路であった。この3騎楼街以外の他騎楼街は非常に少なかった。騎楼街以外では、鐘楼と騎楼の外観を模した飲食センター美食城で多く撮影されていた。観光写真の撮影場所は、観光客が行きやすく印象に残りやすい場所と考え、騎楼街に來訪する観光客にとって、行きやすく印象に残りやすい場所は、主要な中山路、水巷口街と博愛北路3本の騎楼街と、騎楼街に関連する観光スポット (鐘楼・美食城) であることが分かった。

撮影場所別の平均撮影数と撮影人数 (図9) では、中山路が最も多く、次いで水巷口街であった。博愛北路と他騎楼街は中山路および水巷口街よりも大分少ないものの、平均撮影枚数はさほど少なくはなかった。平均撮影数により、観光客の各撮影場所に対する印象の強弱を考察すると、中山路および水巷口街は観光客にとって行きやすく、強い印象を与えているといえる。一方、他騎楼街を訪れる観光客は少ないが、実際に訪れた観光客に対しては、強い印象を与えることが分かった。

(2) 騎楼街の構図

騎楼街をどう捉えたかを見るために、騎楼街 (中山路・水巷口街・博愛北路・ほかの騎楼街) で撮影された240枚の観光写真の構図を単体 (騎楼の正面だけを撮影、ファサードの特徴を表現)・連続 (複数の騎楼が撮影、騎楼街の連続性を表現)・通景 (街路を中心にビスタ景が撮影、騎楼街全体の景観・街並みの雰囲気表現)・なし (騎楼が撮影していない) に分け、撮影場所ごとの割合を把握した。その次、騎楼建築の特徴のほかに、観光客を引き付ける要素から「廊下空間・室内空間・牌楼・住民生活の様子・銅像・花壇・植物・看板・石碑」9つの要素を抽出し、騎楼街ごとの平均撮影枚数を把握した。

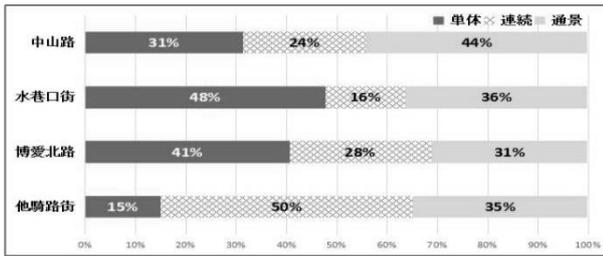


図 10. 撮影場所ごとの平均撮影数と撮影人数

表 2. 騎楼街別各要素の平均撮影数 (枚/人)

要素		中山路/24	水巷口街/19	博愛北路/13	他騎楼街/12
騎楼空間	廊下空間	0.08	0.21	0.00	0.33
	室内空間	0.88	0.58	0.54	0.25
騎楼街空間	牌楼	0.00	0.00	0.23	0.50
	住民生活	0.04	0.05	0.08	0.92
裝飾品	銅像	0.67	0.00	0.00	0.00
	花壇	0.29	0.00	0.00	0.00
	植物	0.04	0.21	0.23	0.00
情報源	看板	0.33	0.16	0.23	0.33
	石碑	0.00	0.53	0.00	0.00
特になし		1.75	1.84	1.92	1.25

各騎楼街の特徴 (図 10) に関し、中山路では通景の写真が最も多かったため、騎楼街全体の外観と雰囲気は、観光客にとって魅力的といえる。海口騎楼老街範囲内で唯一の歩行者専用道路であった中山路は、交通規制により観光客に利便性をもたらし、騎楼街の街道空間の特徴を拡大し、騎楼空間の特徴を弱めたと考えられる。水巷口街では単体の写真が最も多かったため、個別の騎楼建築が最も観光客に認識されている。市政府による水巷口街の個別の騎楼建築の修復工事で強く関係すると考えられる。他騎楼街では、連続の写真数が多くで、単体の写真数は非常に少なかったため、中山路などの3本の騎楼街以外の騎路街では、単体の騎楼建築の特徴は最も弱い、連続している騎楼建築は騎楼空間の特徴を表現するので、他騎楼街ではこの特徴は観光客の注目を集めることができたと考えられる。

他の要素 (表 2) に関し、いずれの騎楼街では、特になしの写真は最も多かった。つまり、騎楼街における観光体験は、建築観光に限られていると考えられる。そして、中山路の室内空間の写真は 0.88 枚/人であったため、観光客は騎楼建築の室内空間の用途について強い関心を持っていると考えられる。騎楼建築の空間の活用は非常に重要だといえる。また、

他騎楼街では、住民生活の写真は 0.92 枚/人なので、住民要素は観光客にとって魅力的だと考えられる。しかし、現状の深刻な空き家状況を踏まえ、騎楼街の居住空間の保護は極めて重要だといえる。

7. 総合考察：政府、商業、観光の関係性

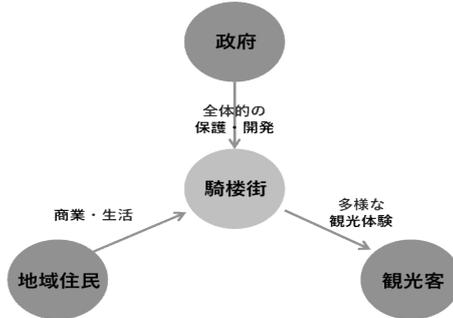


図 11. 騎楼街における理想的な関係図

第 4、5、6 章の研究結果を踏まえ、海口騎楼老街の保護と観光活用において、政府、商業、観光三者は互いに影響するという観点を持って三者の関係性について考察した。政府機関は中山路エリアと他騎楼街に対する異なっていた取り組みは、各騎楼街に格差を強く付けられてしまった。その影響を受け、各騎楼街に展開する事業所の個性の差異は生じ、中山路と近いほど観光地化が顕著であり、居住地の性格が失われつつあった。このような騎楼街において、観光客は観光地化の中山路エリアに集中し、観光体験は建築観光に偏っている。従って、騎楼街における理想的な「政府・地域住民・観光客」の関係 (図 11) において、住民要素の喪失・騎楼街別の取り組み・観光体験の単一化の3つの課題が存在している。

従って、騎楼街におけるその文化的価値を維持しながら持続可能な観光を実現することに対して、住民の帰還により、騎楼街の空間活用を継承することと騎楼街ならではの観光を創出することを可能にすると考えている。そのため、地域住民が生活を営めるように騎楼街全体の空間整備を行うべきと提言する。

主な参考文献

- 1) 海口騎楼老街研究会：歴史人文調査票、海南出版社、pp.56-81、2007
- 2) 海南省文化遺産研究会：百年騎楼、海南出版社、pp.25-60、2009
- 3) 楊宏烈：嶺南騎楼建築の文化復興、中国建築工業出版社、pp.31-66、2010
- 4) 海口騎楼老街研究会：海口中山老字号、海南出版社、pp.1-134、2014
- 5) 趙愛華：騎楼百年之楼街復興、海南出版社、pp.33-159、2016